

第2分科会

高校の探究学習は、キャリア発達にどのように影響しているのか

〔報告者〕 古田 悠馬（京都大学大学院 理学研究科 博士後期課程 1年）

〔報告者〕 三添 りん（大阪教育大学 教育学部 1年）

〔報告者〕 岩間 智哉（京都府立大学 文学部 1年）

〔コーディネーター〕 乾 明紀（京都橘大学 経済学部 准教授）

〔コーディネーター〕 加藤 健（京都市教育委員会 学校指導課 指導主事）

今年度より実施されている新学習指導要領では「探究」の語を含む科目などが7つ新設された。そのうちのひとつ「総合的な探究の時間」では、課題の発見・解決に関する資質・能力の習得のみならず、卒業後のキャリア形成に向け「自己の在り方生き方」を考える機会となることが期待されている。本分科会では、探究活動がキャリア発達にどのように影響を与えていたかについて、現役の大学生・大学院生の報告をもとに考える。

概 略

総合的な学習の時間と総合的な探究の時間との違いや、現在の高校生を取り巻く社会環境の変化に触れつつ「高校教育の中で、キャリア発達支援と探究活動をどうデザインするのか？」という問いを分科会全体に関わるものとして提示した。コーディネーターが報告者の出身校2校の探究活動の概要を紹介した後、3名の報告者それぞれから自身が高校時代に取り組んだ探究活動の内容と、それが自身のキャリア展望やキャリア発達にどのような影響を与えたと捉えているかについて報告を行った。

（古田氏）もともと中学生の頃から研究というものに関心や憧れを持っていたが、高校の探究活動を通じて具体的な課題設定の仕方を学び、自身の目指す研究者というものの像が明確になっていった。大学進学後は高校時代の探究テーマとは大きく異なる分野の研究をしているが、高校時代に学んだ探究プロセスは現在の研究活動にも通じる部分があると感じている。

（三添氏）グループ探究をしていく中で外部コンテストへの出場等で活動の幅が広がっていく経験をしたり、グループ内のメンバーや他のグループからの刺激を受けたりしたことが、コロナ禍で縮小を余儀なくされた音楽活動（自身のキャリアの一部となっている課外活動）のモチベーション低下を補ってくれたり、探究にとどまらず生活全体の中で視野を広げることにつながっていた。活動の結果だけではなく過程を重視することの大切さにも気付いた。

（岩間氏）自身の学習観が教科教育を重視するものであったり、グループ活動の不得意さ等もあ

ったりして探究活動に取り組んでいた当時は前向きになれず楽しいとは思えていなかった。しかし、その後、大学進学のために自分の考えを述べる小論文を作成したことなどが契機となり、1、2年次に取り組んだ探究活動との関連に気づき、探究での学びを自身のキャリアといわば結合させ、今後も役立つものとして新たに価値づけることができるようになった。

全体討論の内容

【質疑】

・探究活動で他者から受けた刺激について

→（古田氏）個人探究とは言え、同じゼミのメンバーとの対話やゼミの担当教員・TAからの助言等で受けた刺激は大きかったと感じている。特にTAの大学院生の方が所属しておられた大学の研究室を実際に訪問させていただき、最先端の研究に触れさせてもらえたことは現在の自分のキャリア形成に大きな影響を与えてくれたと捉えている。

・将来のビジョンについて

→（三添氏）将来的には音楽に関わる仕事に就くのだろうという思いはあるが、今の自分は「あらゆるところにセンサーが向いている」状態にあると捉えている。音楽関連のこと以外も、とにかくいろいろなことに手を伸ばしたいと考えている。

・探究の授業の大切さに気付くべきタイミングについて

→（三添氏）1、2年間の授業が全て終わった後に振り返ってみて改めてその大切さに気付くということももちろんあり得るが、自分とはとにかく授業を「生かしきる」ということが大切だと思っており、やはり授業に参加できる間に気付けるのがよいと思う。

・（岩間氏の所属していた）クイズ研究会の取り組みと探究活動の関連について

→（岩間氏）クイズは「答えのあるもの」、探究活動は「答えのないもの」という発想もあり、両者を関連付けていくという発想はこれまであまりなかったかもしれない。質問を頂いて確かに関連する部分はあると感じた。

【グループ協議後の共有から】

- ・個人での探究とチームでの探究にはそれぞれメリット・デメリットがある。
- ・問いをどのように設定するのか、探究活動の中でどのような人と出会わせるのか、どのような経験をさせていくのかというデザインが重要である。
- ・探究活動における学びがキャリア形成と関わるものであることを担当教員が十分意識した上で授業設計をし、生徒にもそれを伝えていくことが必要だと考える。
- ・小学校、中学校での経験も含めての話になるが「失敗の経験」をもっとさせるべきではないか。「失敗しないように」行ってきた大学生が多いように感じる。

- ・今回の報告者の共通点の一つとして「自分のやりたいこと」を自分で見つけた経験を持っていることが挙げられる。自分のやりたいことを一度も見つけたことがない生徒、学生に対しても探究を通じてキャリア発達に資するアプローチをしていくのがわれわれの役割であろう。
- ・「やりたいこと」が見つけられないことの要因の一つには、意思決定をした経験が少ないことがあると捉えている。キャリア形成には意思決定が欠かせない。探究活動の場面に限らないが、些細なことでもよいのでさまざまな場面で意思決定をさせることを意識していくべき。
- ・人間はそもそも「考える」ことが好きであり、考えるようにできている。しかし、大人になるに連れて考える機会が奪われ、探究の芽が削がれていっているということはないか。そういった枠組みから解放してあげるような探究のデザインを考えていきたい。



スライド1

第20回高大連携教育フォーラム
【京都高大連携研究協議会発足20年記念】

**高校の探究学習は、キャリア発達に
どのように影響しているのか**

2022年12月3日 15:30～17:30
第2分科会 コーディネーター
乾 明紀（京都橘大学 経済学部 准教授）
加藤 健（京都市教育委員会 学校指導課 指導主事）

1

スライド2

報告者

1. 古田 悠馬 氏（京都大学大学院 理学研究科 博士後期課程1年／京都市立堀川高校卒業生）
2. 三添 りん 氏（大阪教育大学 教育学部 1年／京都府立鳥羽高校卒業生）
3. 岩間 智哉 氏（京都府立大学 文学部 1年／京都府立鳥羽高校卒業生）

2

スライド3

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明（15分）
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介（10分）
3. 古田氏より事例報告（10分）
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介（10分）
5. 三添氏より事例報告（10分）
6. 岩間氏より事例報告（10分）
- 【休憩 10分】
7. 情報の整理（5分）
8. ダイアログ（40分）

3

スライド4

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明（15分）
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介（10分）
3. 古田氏より事例報告（10分）
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介（10分）
5. 三添氏より事例報告（10分）
6. 岩間氏より事例報告（10分）
- 【休憩 10分】
7. 情報の整理（5分）
8. ダイアログ（40分）

4

スライド5

変化を楽しみ人であれ
京都橘大学

コーディネーター自己紹介

京都橘大学 経済学部 経済学科 准教授 乾明紀
（鳥羽高校学校運営協議会 会長、鳥羽高校同窓会副会長）

専門は、キャリア教育、シティズンシップ教育、PBL、探究学習など

【私のキャリア】
和傘・洋傘卸商の4代目として京都市下京区で生まれる。
京町家で育ち、大学では歴史を学び、家業を継ぐ予定が、社会の変化とご縁があって、大学職員を経て大学教員となった。
鳥羽高校3期生、高校時代は校則を破ってアルバイトをするなど、ダメな生徒でした…。



5

スライド6

高校教育に関する主な委員や研究など

- ・ 2022年3月 - 現在 大学コンソーシアム京都 京都高大連携推進室コーディネーター
- ・ 2021年4月 - 現在 京都府立鳥羽高等学校 学校運営協議会 委員（会長）
- ・ 2021年4月 - 現在 京都府立高校共通履修科目「スマートAP」のカリキュラム開発および授業実施
- ・ 2019年4月 - 現在 京都市市民参加推進フォーラム 委員（2021年6月から副座長）
- ・ 2019年4月 - 現在 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究
- ・ 2020年7月 - 2021年3月 京都府教育委員会 新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業 実証研究委員会
- ・ 2020年6月 - 2021年3月 大阪信愛高等学校 「総合的な探究の時間」アドバイザー
- ・ 2019年8月 - 2020年3月 京都府教育委員会 「学校ICT環境整備促進実証研究事業」(遠隔教育システム実証研究事業)
- ・ 2019年2月 - 2020年3月 文部科学省 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業企画評価会議グローバル型企画評価部会協力者
- ・ 2016年4月 - 現在 京都府立鳥羽高校の探究学習に関する助言および授業の実施
- ・ 2009年4月 - 2021年3月 京都府立鳥羽高等学校 評議員

6

スライド7

コーディネーター自己紹介

京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 加藤健

担当教科：国語

これまでの勤務校：静岡県立清水東高等学校
京都市立堀川高等学校
京都市立紫野高等学校

【私のキャリア】
静岡県内2番目に小さな町で生まれ育ちました。学生時代のすべては文化祭実行委員に捧げました。見に行くのも好きで高校・大学あわせてこれまで40校ほど行きました。コロナ禍での縮小は残念。高校教員になったのも文化祭運営に関わりたいからでした。国語という教科を選んだのは京都の地で文学に触れた経験が大きいと思っています。

7

スライド8

本分科会で設定した「問い」

高校教育の中で、キャリア発達支援と探究活動をどうデザインするのか？

事例研究とダイアログを通じて考えていきたい

8

スライド9

「総合的な探究の時間」への期待

今年度より実施されている新学習指導要領では、「探究」の語を含む科目等が7つ新設された。そのうちのひとつ「総合的な探究の時間」では、課題の発見・解決に関する資質・能力の習得のみならず、卒業後のキャリア形成に向け「**自己の在り方生き方**」を考える機会となることが期待されている。

9

スライド10

中央教育審議会答申(2016)

○高等学校における総合的な学習の時間は、特定の分野を前提とせず、**実社会・実生活から自ら見いだした課題を探究することを通じて**、小・中学校における学びを基盤としながら、より自分の**キャリア形成の方向性を考えることにつなげるものであること**。
言わば、生涯にわたって探究する能力を育むための、初等中等教育最後の総仕上げとなる重要な時間であること。

○一方で、小・中学校と比較して高等学校での取組が低調であるとの指摘もあるところであり、**重要性を踏まえた位置付けを明確化するため、名称を「総合的な探究の時間」として見直すとともに**、生徒の主体的な探究を支援する教材等の作成も検討すること。

10

スライド11

総合的な学習の時間と 総合的な探究の時間の違い (学習指導要領より)

課題と生徒との関係(イメージ)

11

スライド12

高校生を取り巻く環境

- ・社会への出口に最も近い
- ・社会の構造的変化の進展（戦後日本型青年期⇒VUCA時代、Society 5.0、第4次産業革命など）
- ・選挙権年齢の引き下げ
- ・成人年齢の引き下げ など

⇒高校生が社会をより身近に感じ、生涯にわたって主体的に社会の在り方や人生（キャリア）を考えることの大切さを実感できる学びの重要性は一層高まっている。

12

スライド 13

高校生のキャリア意識（展望）は 卒後キャリアの発達のための重要なエンジン

- ・全国の高校2年生4.5万人を対象に追跡調査をした「10年トランジション調査」（溝上,2018）の結果
- 大学1年時の主体的な学習態度は、同じく大学1年時の二つのライフ（①将来見通しと②そのためにすべきことの理解と実行）で説明される。
- その二つのライフは、高校2年時のキャリア意識（進学先についての展望とその準備状況、進学先卒業後の職業展望）に大きな影響を受ける。

⇒高校2年生段階で「キャリア意識」（キャリア展望）が明確であると、その後のキャリア発達に良い影響を与えることが明らかに。

13

スライド 14

「総合的な学習の時間」における 教員側の「4つのふ」

<不安>・<負担>・<不要>の「3つの『ふ』」
（文教総研,1999）

「生徒にどのように役立っているのか不明確だ」
（池田・村瀬・武田,2020）

⇒不安・負担・不要・不明確の「4つのふ」

⇒「総合的な学習の時間」では、教員は生徒の
キャリア発達の手ごたえを感じられていなかった？

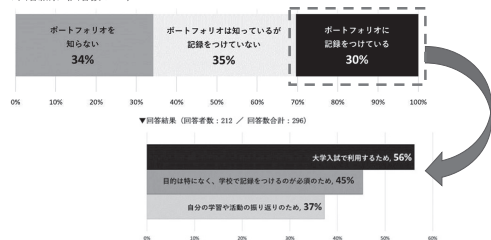
14

スライド 15

キャリア発達に関心が低い生徒？

- ・2020年度キャリア・パスポート義務化
- ・価値を理解せず、目的も持たないまま利用していることが指摘されている（旺文社教育情報センター,2019）

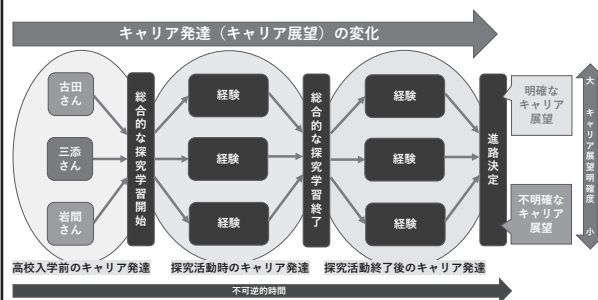
▼回答結果（回答数：698）



キャリア・パスポートの活用状況（旺文社教育情報センター,2019）より 15

スライド 16

3名からの事例報告



高校生は、探究活動をしなが
ら、どのようにキャリアを発達させているのか？

16

スライド 17

本分科会で設定した「問い」

高校教育の中で、キャリア発達支援と探究活動
をどうデザインするのか？

事例研究とダイアログを通じて考えていきたい

17

スライド 18

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明（15分）
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介（10分）
3. 古田氏より事例報告（10分）
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介（10分）
5. 三添氏より事例報告（10分）
6. 岩間氏より事例報告（10分）
- 【休憩 10分】
7. 情報の整理（5分）
8. ダイアログ（40分）

18

スライド 19

京都市立堀川高等学校

創立
明治41年（1908年）
京都市立高等女学校として設立

昭和23年（1948年）
京都市立堀川高等学校に改称

平成11年（1999年）
人間探究科・自然探究科設置 新校舎竣工



19

スライド 20

京都市立堀川高等学校

- 課程：全日制
- 学科：普通科2クラス、人間探究科／自然探究科4クラス
- 規模：18学級、生徒728名

- 2002年～2020年 **SSH**（スーパーサイエンスハイスクール）計4期の研究指定
- 2014年 **SGH**（スーパーグローバルハイスクール）研究指定
- 2022年 **SSH**認定校指定、科学人材育成重点校指定

20

スライド 21

堀川高校の「探究基礎」

1 年	2 年	3 年
探究基礎Ⅰ (2単位) HOP 問いを共有し身近な疑問を調べたり、研究者の課題意識を学んだりすることで、自分の「知りたい」を広げたり、深めたりする。	探究基礎Ⅱ (2単位) JUMP 自ら問いを立て、探究をすすめる。自分の在り方生き方と探究の関わりを考える。	探究基礎Ⅲ (1単位) 学校設定科目、選択科目。個人やグループでの活動を続ける。

理数探究基礎 (1単位)

複数の理数的な探究テーマで探究をすすめることで、探究の「型」を身につける。

21

スライド 22

1年前期 HOP

- 探究の「型」を学ぶ期間
- 目標：探究の楽しさを満喫しつつ
探究という営みが様々な場面で
役立つことを実感する

クラス単位での授業
自分や他者の問題意識を知り、
それを広げたり深めたりする
課題設定・調査・発表の実践

22

スライド 23

1年後期 STEP

- 探究の「術」を身につける期間
- 目標：分野固有の研究手法を
身につける

分野毎の少人数講座（ゼミ）に配属
実験技能・データ分析
文献収集・文献講読
レポート作成方法

23

スライド 24

STEP・JUMPゼミ（探究科）

文系ゼミ ①言語・文学（国語科） ②人文社会（地歴公民科） ③国際文化（英語科）	理系ゼミ ④物理 ⑤化学 ⑥生物学 ⑦地学 ⑧情報科学 ⑨数学
--	--

※探究科4クラスを2クラス
ずつに分けて授業を展開
（全ゼミ2集団）

24

スライド 25

2年前期 JUMP

- 探究の「道」を知る期間
- 目標：探究活動を実践する
個人で研究課題を決定
研究計画の立案
必要な知識・技法も自分で習得

25

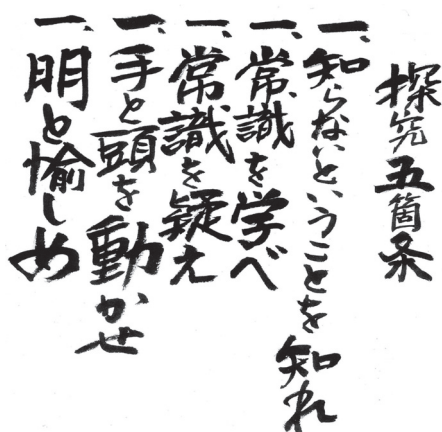
スライド 26

2年生 探究基礎研究発表会の様子



26

スライド 27



27

スライド 28

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明 (15分)
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介 (10分)
3. 古田氏より事例報告 (10分)
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介 (10分)
5. 三添氏より事例報告 (10分)
6. 岩間氏より事例報告 (10分)
- 【休憩 10分】
7. 情報の整理 (5分)
8. ダイアログ (40分)

28

スライド 29

報告 1

古田 悠馬 氏
(京都大学大学院 理学研究科 博士後期課程1年
／京都市立堀川高校卒業生)

29

スライド 30

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明 (15分)
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介 (10分)
3. 古田氏より事例報告 (10分)
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介 (10分)
5. 三添氏より事例報告 (10分)
6. 岩間氏より事例報告 (10分)
- 【休憩 10分】
7. 情報の整理 (5分)
8. ダイアログ (40分)

30

スライド 31

京都府立鳥羽高等学校

創立
明治33年（1900年）
京都府第二中学校の歴史を引き継ぐ
第1回全国中等学校優勝野球大会優勝



昭和59年（1984年）
京都府立鳥羽高等学校としてのスタート



31

スライド 32

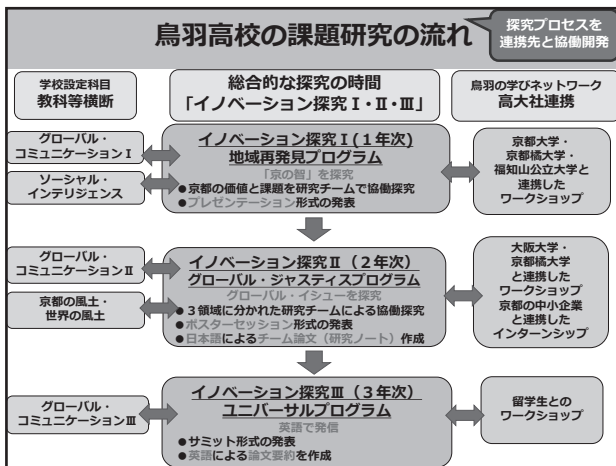
京都府立鳥羽高等学校

- ・ 課程：全日制、定時制
- ・ 学科（全日制）：普通科、グローバル科
- ・ 規模（全日制）：21学級、生徒825名
（内グローバル科229名／2022年5月1日現在）
- ・ 2015年 SGH（スーパーグローバルハイスクール）指定
- ・ 2020年 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 カリキュラム開発拠点校指定



32

スライド 33



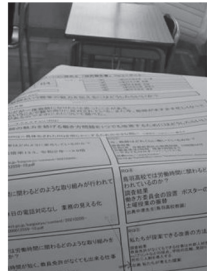
スライド 34

イノベーション探究Ⅱの概要

国家の枠を超えた世界規模のグローバル・イシューに関するチーム探究活動を行うプログラム

【探究活動のねらい（教育目標）】

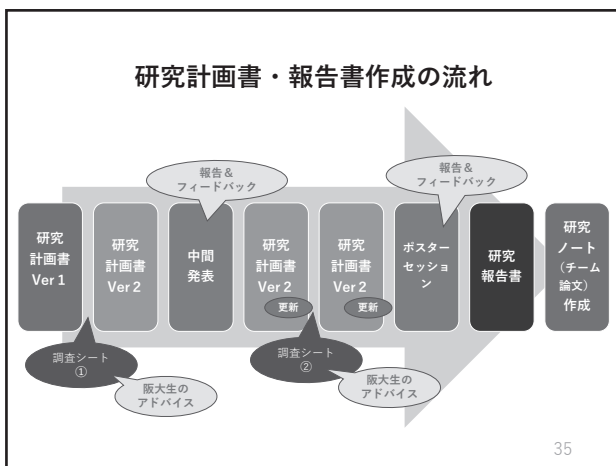
- ① オリジナル様式で「作法」＝研究手法を学ぶ。
- ② インタビュー調査やフィールドワークにより研究テーマを自分事化する。
- ③ 発表の機会を設けフィードバックにより研究の質を高める。



なお、イノベーション探究Ⅱの最終成果物は、「研究ノート」と呼ぶ研究チームにて作成する論文であるが、2020年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大（コロナ禍）による臨時休業期間があったため、3年次に行うこととした。また、コロナ禍により活動の制約も多く、生徒間の対面でのコミュニケーションは不足し、従来のようなインタビュー調査やフィールドワークの実施が困難であった。

34

スライド 35



スライド 36

生徒の研究（探究）テーマ設定プロセス

グローバル・イシューに関する研究（探究）テーマを設定するにあたっては、**教員が生徒の興味・関心の共通点をもとに「研究グループを編成する過程」と、**

グループ内での議論や対話によって、生徒たちが「**研究テーマを定め、『研究チーム』を結成（形成）する過程**」がある。

36

スライド 37

①研究グループを編成する過程

- 生徒は、まずSDGsの17の目標について学習する。次に、高校生の先行研究ともいえる「WWL・SGH×探究甲子園」に出場した各校のプレゼンテーション概要を確認する。
- その上で生徒は、どのような課題をテーマに研究したいかを調査票に記入し、担当教員に提出する。
- 担当教員は調査票を確認し、同じような関心のある生徒をまとめ、4人前後のグループを編成する。



37

スライド 38

②研究テーマを定め、「研究チーム」を結成（形成）する過程

- 教員によって編成された研究グループは、顔合わせの後、それぞれの関心を紹介しながら仮研究テーマを設定する（第6回授業）。
- 次に生徒は、乾が担当する講義とワークショップを受講する（第7回授業）。ここでは、イノベーション探究IIの探究プロセスと各様式の使用方法も交えて解説する。また、リサーチクエストの立て方、グループとチームの違い、チームでの探究活動に必要なチームワーク行動などについても解説する。これらの解説の後、生徒は研究計画書の作成に取り掛かる。
- この研究計画書の作成を通じて、課題研究のテーマ（研究テーマ）が決定され、研究目標を共有する「研究チーム」が結成されていく。なお、研究テーマは、研究計画を更新する過程で変更される場合もある。



38

スライド 39

ポスターセッションの様子



39

スライド 40

本日のメニュー

- オリエンテーション・趣旨説明（15分）
- 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介（10分）
- 古田氏より事例報告（10分）
- 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介（10分）
- 三添氏より事例報告（10分）
- 岩間氏より事例報告（10分）
- 【休憩 10分】
- 情報の整理（5分）
- ダイアログ（40分）

40

スライド 41

報告 2

三添 りん 氏

（大阪教育大学 教育学部 1年／京都府立鳥羽高校卒業生）

41

スライド 42

本日のメニュー

- オリエンテーション・趣旨説明（15分）
- 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介（10分）
- 古田氏より事例報告（10分）
- 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介（10分）
- 三添氏より事例報告（10分）
- 岩間氏より事例報告（10分）
- 【休憩 10分】
- 情報の整理（5分）
- ダイアログ（40分）

42

報告 3

岩間 智哉 氏
(京都府立大学 文学部 1年 / 京都府立鳥羽高校 卒業生)

43

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明 (15分)
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介 (10分)
3. 古田氏より事例報告 (10分)
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介 (10分)
5. 三添氏より事例報告 (10分)
6. 岩間氏より事例報告 (10分)

【休憩 10分】

7. 情報の整理 (5分)
8. ダイアログ (40分)

44

本日のメニュー

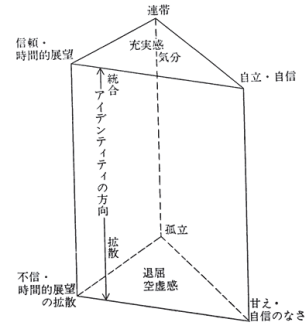
1. オリエンテーション・趣旨説明 (15分)
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介 (10分)
3. 古田氏より事例報告 (10分)
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介 (10分)
5. 三添氏より事例報告 (10分)
6. 岩間氏より事例報告 (10分)

【休憩 10分】

7. 情報の整理 (5分)
8. ダイアログ (40分)

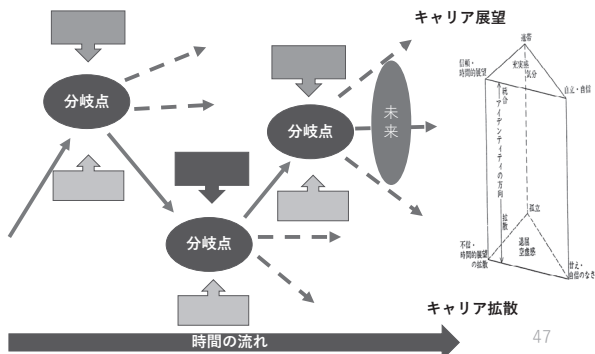
45

現代日本青年の心情モデル



※西平 (1979) を大野 (1984) が拡張したもの

キャリアは展望と拡散を経験しながら発達する



47

本日のメニュー

1. オリエンテーション・趣旨説明 (15分)
2. 京都市立堀川高等学校の探究学習紹介 (10分)
3. 古田氏より事例報告 (10分)
4. 京都府立鳥羽高等学校の探究学習紹介 (10分)
5. 三添氏より事例報告 (10分)
6. 岩間氏より事例報告 (10分)

【休憩 10分】

7. 情報の整理 (5分)
8. ダイアログ (40分)

48

本分科会で設定した「問い」

高校教育の中で、キャリア発達支援と探究活動をどうデザインするのか？

事例研究とダイアログを通じて考えていきたい

49

スライド 1

探究活動とキャリア展望

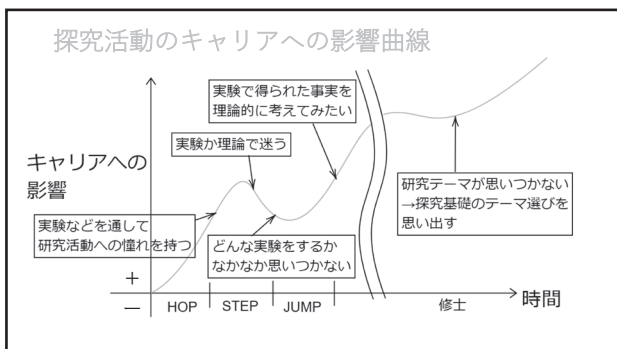
京都大学大学院 理学研究科 博士課程1年（数理解析研究所）
古田悠馬

スライド 2

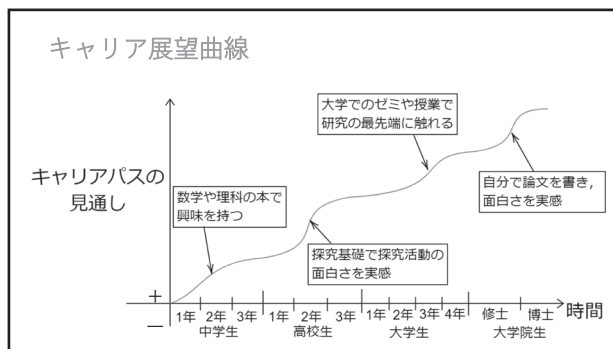
探究活動の概略（化学ゼミ）

- HOP
探究の型を学ぶ。文献のサーチや論文の書き方
- STEP
実験を通してより専門的な実験手法を学ぶ。（分光光度計を用いた水質調査）
- JUMP
自ら立てた課題について探究する。
高吸水性ポリマーの水への添加量と凝固点の関係

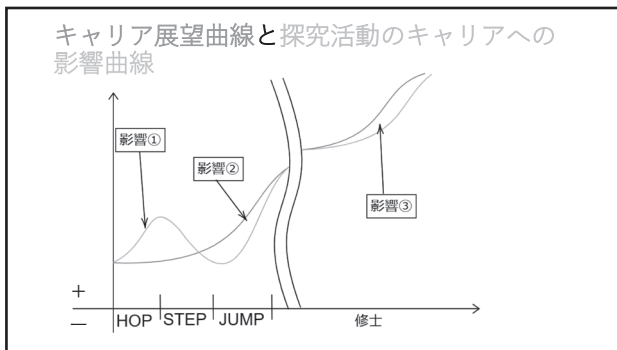
スライド 3



スライド 4



スライド 5



スライド 6

考察

- 影響①
もともと研究職志望だったが、研究の内容が具体的にどのようなものかは分かっていない、漠然とした憧れであった
HOPでの文献調査・論文へまとめる作業やSTEPでの専門的なゼミにおける実験を通して実際の研究のプロセスへの解像度が上がった

スライド7

考察

•影響②

JUMPの実験で得られた結論に対して、「なぜそのような結果になるのか」という理論的な説明に興味を持つ

→理論を研究する道を志望するように

•影響③

修士論文のテーマがなかなか決まらない

→探究基礎でもテーマが全然決まらなかった経験を思い出した

「JUMPのときのように思いつく課題を書き出して整理できた」
+ 「JUMPを乗り越えたという自信」により修士論文のテーマも決定でき、今の研究にも繋がっている

スライド8

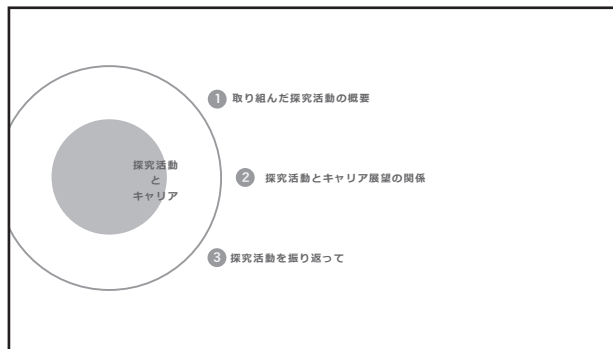
探究を振り返って

- 探究基礎では専門的な手法を学ぶだけでなく多くのことを学べ、人生の様々な部分で役に立っている。（批判的思考力、物事の課題点を整理する方法、etc...）
- 探究基礎のネガティブな経験（テーマが全然決まらなかったetc...）もその後の人生でプラスに作用することもある。
- もともとキャリア展望がはっきりあったので、その展望をよりクリアにする探究活動ができたと実感している

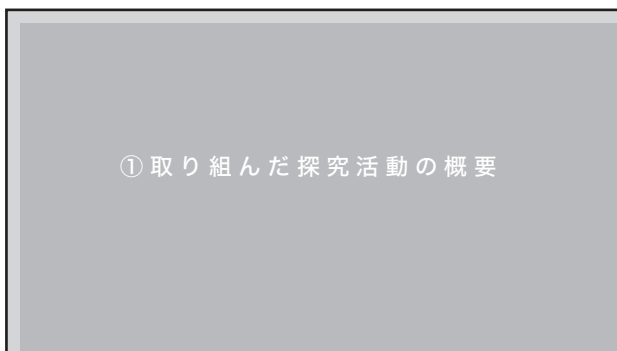
スライド 1



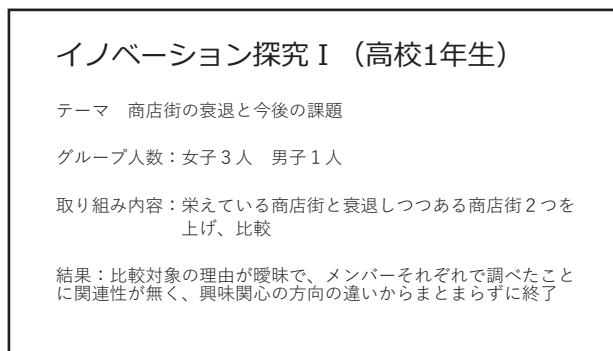
スライド 2



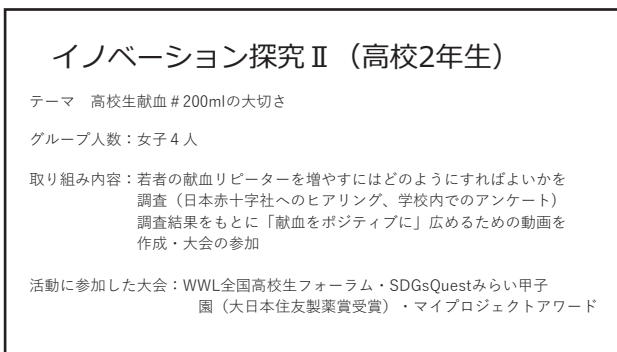
スライド 3



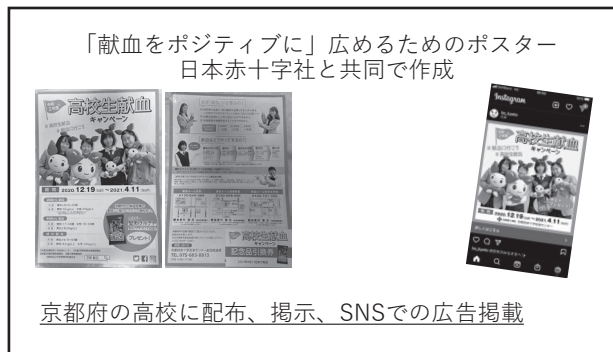
スライド 4



スライド 5



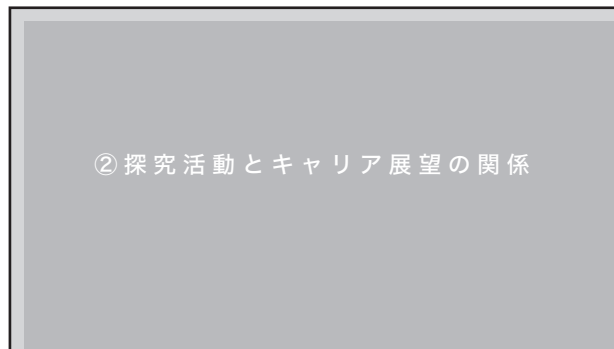
スライド 6



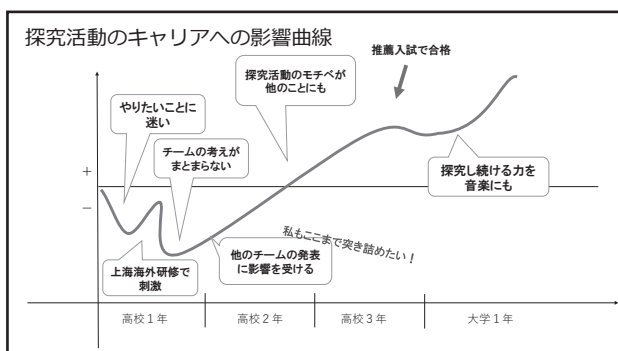
スライド7



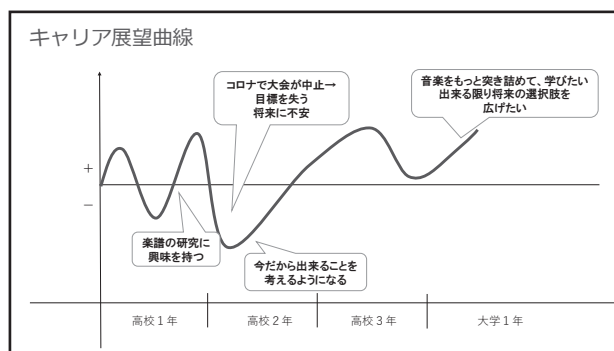
スライド8



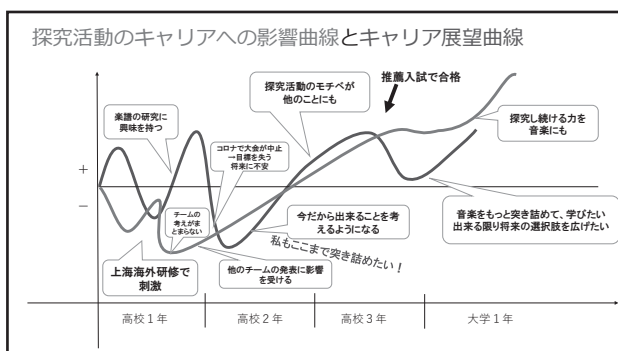
スライド9



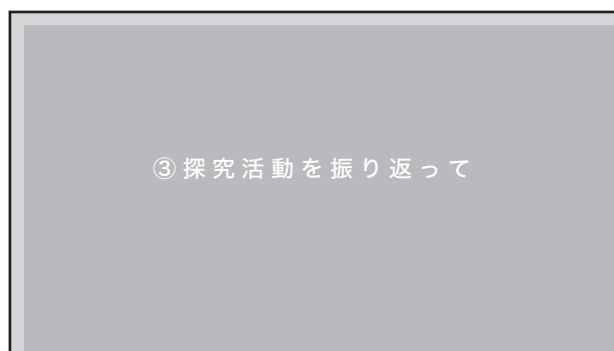
スライド10



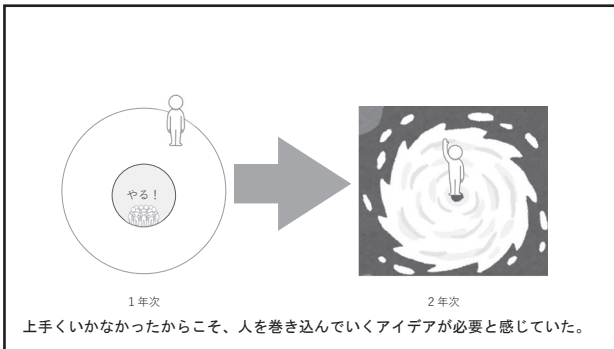
スライド11



スライド12



スライド13



スライド14

活動結果にこだわるのではなく
活動過程にこだわる

「活動過程がどのようにキャリアに反映するのか」

スライド15

この授業がある意味を考え、
「あるからこそ」活かしきると決めていた。

全チームが自主的に動いたわけではなかったのは事実。
マイノリティに目を触れる機会が増え、視野が広がった人があるのも事実。

ポイントは「授業の大切さについて気づくのか」

スライド 1

大学合格後にわかった
探究活動の意義

京都府立大学 文学部 1年
岩間智哉

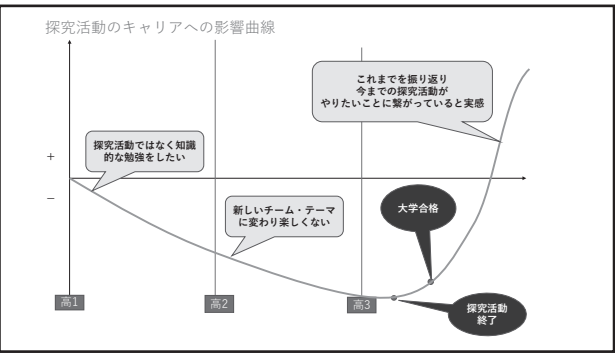
スライド 2

探究活動の概要

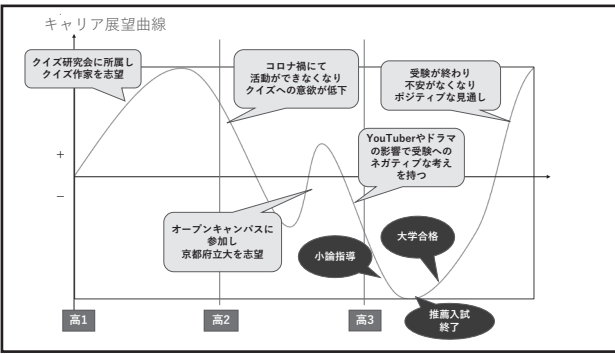
1年次 京都の観光公害問題について
4人（男子2人女子2人）
京都の観光公害について調べ問題と改善策を考えた

2年次 文化財をどのように伝えるか
5人（男子1人女子4人）
京都文化博物館の学芸員の方との交流
鳥羽高校の文化財をどのように伝えていくか考えた

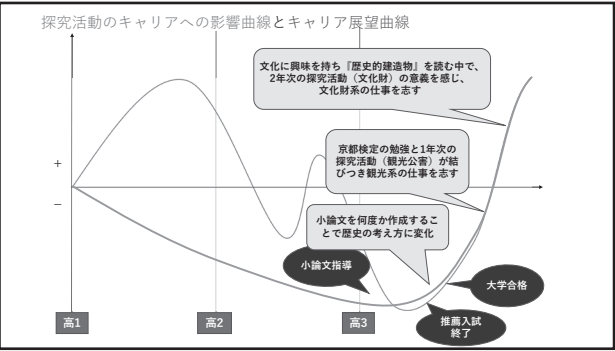
スライド 3



スライド 4



スライド 5



スライド 6

探究の経験がキャリアと結合したとき

1年次 観光公害 2年次 文化財の保存活用
小論文 歴史の捉え方、文化財の在り方

↓

京都の観光系の仕事をめざす